

刊夕六十月二十

常磐每日新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
電話 五〇五 印刷部 五〇六 社務部 五〇七
發行所 常磐毎日新聞社 印刷所 常磐毎日印刷株式會社

愛着の町、平よ!

川崎小鳥兒に呈す

淺原六朗

水と云へば、僕はよく長橋町のあの丘の下の方かい井戸まで、水をくみに行つたものだ。教會まで途中三度は休まなければならなかつた。肩が痛かつたものだ。

平は少年時代のなつかしい世界だ。あの頃の人たちもみんな變つたらう。君の両親が他界されたやうに僕の父も今はもう亡い。

僕が初恋のやうに氣轉を抱いた、あの人はどうしたかしら

Sさん、眼の黒い可愛い人だつたが、アルト・ハイデルベルヒのハイソリツヒのやうな氣持で行つて見ようかしら

この中で君が變らずに益々發展のなかで成長されてゐることが嬉しい。君があるかぎり、僕はいつか平に行くことだらう。

君から贈られた「滿洲土産談」はすぐに読み終つた。僕は自分の職業が作家であるため、著書は割合に多く

寄贈される、寄贈されながら、それらの本は殆んど讀まないやうな僕なのだ。

然し、君のだけは特別だつた、一寸ひらいたら、すぐにあの本の魅力に、つかまつてしまつたのだ。忙がしいなかにありながら、時間を忘れて、僕は君の「滿洲土産談」を愛讀することが出来た。

君は少年時代から才氣があふれてゐたが、その才氣が、今や圓熟に近く、よき人格を完成しつつある紳士であることに、僕は逢ふたびごとと敬服してゐたのだ。君の「滿洲土産談」では更に僕を愉快にさしてくれた。

あの本をよむと、君の才氣が益々芽え、しかも大きくひろがりつつあることが感ぜられるのだ。

君は滿洲のあれだけの材料をよくこなし得て、少しも凝滞してゐない、平易に樂々と面白く讀ませる手腕は、大したものだ。

興味をもつて讀みながら僕はあの本から大きな智識をも同時にうる事が出来た

硬、軟、柔、たくみに取材を變化させつゝ、一脈のユーモアも入れて、滿洲の土産をひろげる處、高座などで聽く名人藝を想はせたり、時代の注意はすべて滿蒙にむけられてゐる處だ、君の著書が、もつと一般に讀まれていいと僕は、眞實に考へた。

今日はこれで失禮する。電報や、電話で、原稿の催促をうけるのだ。今夜も明日の晩も徹夜しなければならぬ。

君も忙がしいこと、思ふ僕も忙がしい。然し三十代の人間が繁忙のなかにゐないやうでは嘘だ、三十代こそ、人間眞に活動すべきだと思ふ、生涯の基礎が確定される時なのだ。

懸命に努力する、君も健康で益々繁榮されるやうに妻や、子供たちからもよろしくとの事だ。

御令間にもよろしく(終)

時計眼鏡

トキワヤ 平一・電三三九

ハシモトヤのサービステ

毛糸編物講習會

十二月十三日ヨリ 五日間
十二月十七日マデ 午前九時ヨリ午後三時マデ

會場ハシモトヤ糸店階上

講習料 無料

かぎ編、棒編、文化器編、どんな編物でも自由に御教へ致します。参考品澤山會場へ陳列致します。どうぞ遠慮なく御出下さい。

吉田眼科病院

平紺屋町、電話六八八番

保險は人生の鍵

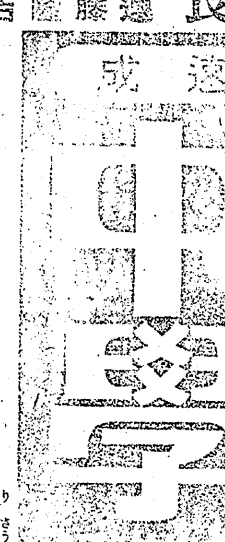
◎山は富士、保險は三井

- 一、老へ行く先の慰安になさんとする人々は……三井生命へ
- 一、將來獨立の生計をなさんとする人々は……三井生命へ
- 一、遺族の爲に扶助金を造らんとする人々は……三井生命へ
- 一、人生は朝露の如し萬一に備ふる人々は……三井生命へ
- 一、貯金よりも最も有利なる方法を求めんとする人々は……三井生命へ
- 一、子息を完全に教育せんとする人々は……三井生命へ
- 一、今日は人の身明すは我が身と思ふ人々は……三井生命へ
- 一、保險加入の有無は自己信用の尺度と思ふ人々は……三井生命へ
- 一、保險は身の爲め國の爲め轉ばぬ先の杖花も實もある三井生命を御奨め致します。

三井生命平駐在社員 福島 寛利
平紺屋町二丁目 佐藤 永春
三井生命代理店主幹

◎最も易い獨特の教授法!!

會長 遠藤 達也
副會長 藤田 隆雄
事務局長 吉田 博
會計局長 吉田 博
監事 吉田 博

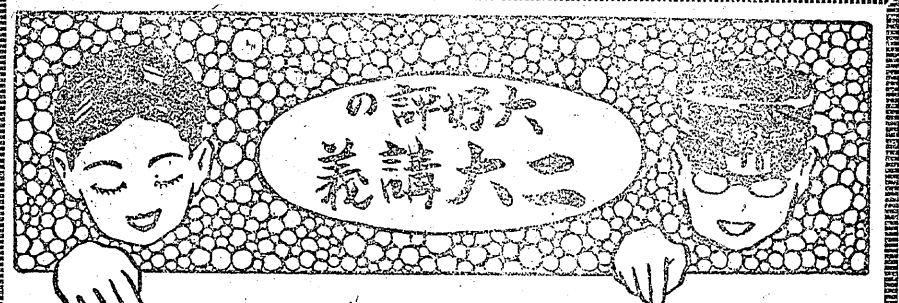


この餘暇に勉強しながら僅か一ヶ月で文部省令に依る中等全科が完全に習得できる、講師諸君によるこの理想的の講義に依つて職業に就く準備が整ふ。

上手は時代の勝利者

今評判の透寫式練習法とは新式奇抜な新法にして最も興味深い練習法にて短日月で日本語、英字、數字等に熟達し得る通信式教授システムに「で見た」と東京神田三崎町IIペン習字研究会へハガキで申込み説明見本無代送呈す。

新案透寫式練習法 短期で卒業できる 懇切で内容の完備 種々の大特典提供 一生の良師友!!



全國の教員と

歩調を共にし

國負實現の猛運動 請願書に署名済

既報郡下に千七百餘名の會員を有する石城教育會では、教員給料國庫負擔案を貴衆兩院に運動するに就ての請願書全部署名を了したので、八日の校長會に於いて取纏め全國教員會に送付し請願實現の爲め全國教員會と行動を共にする事になつたと

茂庭博士が

水道 工事監督

昨夕來平して

平町上水道工事の顧問茂庭忠次郎博士は昨夕四時四十五分平着列車にて來平本日酒井助役並びに山下水道課長と共に好間村宇上野原に

苦難を 宗教 (二)

賀川豊彦氏述

宗教を嗤つてはならない。宗教は宇宙の神の生命力であり、宇宙の神の復活力である。我々はその力を靈魂に受取つて、ひからびた人生を明るくしなければならぬ。我々は絶望は無用である。病氣したからと云つて、すぐ死ぬものではない。快癒すると云ふことがある。日本では一年間に、八萬人

於ける擴張工事場に至り監督する處が有つた

傳染病は

減少の模様

平署に於ける本年一月以來最近まで取扱つた傳染病患者はチフスが最高で百廿二名(内十八名死)次はチフテリアの百廿名(七名死)疫病卅三名(六名死)赤痢卅二名(四名死)バラチフスの七名等で大体例年と大差ないとの事であるが豫防注射に努めた結果一般の衛生思想が普及して今後は減少する模様に見られて居る

十三日會講演 平十

以上の人が肺結核で死ぬが恐らくその十倍近くの人が肺病に罹つてゐるだらうと内務省の技師が私に云つてゐた。肺病に罹つた者が皆死ぬものなら、我々は毎年棺桶を新しく八十萬作らねばならぬ。然し、天地間には肺病でも治ると云ふ一つの理法が伏在してゐる。私は、肺病に罹つたこともあ

るけれども、不思議に重くならないで、廿五以上も生き延び、一人前の努力を續けてゐる。傷付いて、血が出てゐる。血はその處に治

三日會の例會は十三日午後六時より丸友ホールに於いて開催されるが今回の講師は磐城中学校教諭齋藤榮一氏であるが演題は未定

勅諭寫しを

一般に頒布

帝國在會本部では此程新たに謹製した勅諭寫を全國在郷軍人分會、青年團、學校等に配布する旨本日平町役場へ通知があつたので役場では直に各方面に希望者をつのるべく通知したが勅諭寫一部五十錢送料八錢を直接在郷軍人本部へ申込みばよいと

夏井川護岸

實現を陳情

關係民五十名

土木監督所へ

石城郡赤井村地内夏井川沿岸の護岸工事は最近地元民から縣當局に對し急速工事施行方を屢々陳情してゐたが遂に來年度豫算にも決定されてゐないことを知つたので關係民五十餘名は委員を擧げ九日平土木監督所に陳情更に出縣開會中の縣會に懇請することになつた

高岡元代議士逝く

遺骸は今晩郷里草野村へ

元代議士高岡唯一郎氏は永年の宿病遂に慰せず昨九日午後十時東京市本郷區三組町の別邸に於て水眠した、行年六十七才、同氏は少壯時代より事業界に活躍し現

す力を持つてゐる。人は之を自然力と云ふが、私は之を神の力と云ひたい。

悲しい時、淋しいとき、苦しむとき、悩むとき、人生に光明がないと思ふ時が随分多い。然し、人生は苦痛ばかりではない。苦痛の奥に、不思議な癒しの力があつて、我々もまた地球上で考へられない慰めの世界に連れて行つてくれる。

現在、神戸市外關西學院の教授をしてゐられる岩橋武夫氏は、早稻田大學の理工科に居られた頃、一晚の

的には政友會の重鎮として現在石城政友支部會の顧問である、尙ほ遺骸は本日午後十時草野野驛に着く豫定で十四日午後一時自宅に於て佛式を以つて葬儀を営むと

伊藤支廳長が

澤村神社と

銅像費へ寄附
石城小川江筋普通水利組合元管理者現南會津支廳長伊藤春吉氏は今回同組合の開祖を祭る郷社澤村神社の基金にと拾圓及び江筋開設の共力者たる觀順和尚の銅像を草野村泉崎光明寺に建設中であるので右銅像の工事費にと五圓を寄附すべく本日江筋組合へ送金して來た

役場のボーナス

三割に激減

平町役場の吏員連の賞與は昨年は十割であつたが本年度は町財政逼迫の折柄に鑑み、然し、人生の行路に於て肉體の苦しみによりも、また心理的の苦しみによりも、最も悲しいことは道德的の失敗である。良心は人間至高の藝術であり寶である。それを除いて人生に希望はない。しかし、假令一旦良心を破壊することがあつても天地を創造し、それを進化せしめ給ふ神は、さうした人間を見棄ておきはなさらないのである。神は我々の良心の膿を絞り、碎けた骨を以て、また我々を復活せしめて下さる。

追て葬送の儀は來る十二月十四日午後一時自宅に於て佛式相營申候
昭和六年十二月十日
福島縣石城郡草野村

み三割に決定十五日頃支給される筈
往來
△山崎與三郎氏 九日午後四時四十五分列車にて郡山へ
△工學博士茂庭忠次郎氏 昨日來平
平職業紹介所便り
▲求人部
△採炭夫 四十才以下 月給六十錢より一圓五十錢迄(赤井村某炭礦)
△納豆賣子 廿才乃至卅才 自轉車に乗り得る人三名 住込通勤共可(小島某納豆店)
△求職の部
△採炭夫 卅二才高卒 給料面談(内郷村某)
△農夫 四十四才 尋卒

父高岡唯一郎儀

豫て病氣療

養中の處藥石効なく十二月九日午後十時死去仕候間此段生前辱知諸君に謹告候也
追て葬送の儀は來る十二月十四日午後一時自宅に於て佛式相營申候
昭和六年十二月十日
福島縣石城郡草野村

松本孫右衛門

養

友人總代
親戚總代
男
福島縣石城郡草野村

山木石八岩堀犬
崎村射田崎
與文清宗清
三治郎吉七衛毅

々料面談(平町某)
△電工 廿二才 電氣學校卒業給料面談(内郷村某)
△派出婦 四十二歳 尋卒給料面談(平町搔樋小路某)

鳥小燒

味美

い安の價。てくし味美
鳥小燒
番六八二話電
南町 鳥菊

山木石八岩堀犬
崎村射田崎
與文清宗清
三治郎吉七衛毅

草語の里郷

血だらけで起上り 平然と書方を續く

武名を走せた若松中佐 腕白時代の一挿話

皇軍のため寒氣骨を刺す北満の地に三軍を叱たし天下に武名を輝した騎兵第二聯隊長若松晴司中佐の生家石城郡赤井村中川原實妹ひで(三)さんは中佐の腕白時代を語る「兄は母ふせ(七)から聞きますとやつと

歩き出した頃から

かん坊であつたやうです、體は小粒ながら一角の餓鬼大將で負けぬ氣で生家の裏山で戦争ごつこをして手足が茨でめちやくちやになつても一度も泣いて歸つたことはないさうです、小學校二年の時教室内の黒板に

習字の

時間が何か書かされたが手が屈かぬので先生が踏み臺を用意しましたがついて共に横倒れとなつて下唇に裂傷を負ひ二針も縫つて人事不省になりましたが血だらけになり起き上り半端になつた

赤誠の結晶

續々役場へ

搔搔小路アヅマ美容院主矢

内シゲさんは在滿兵慰問品として揮百本、手拭二十本繪端書百枚をまた美容院一同として千人縫洞卷四掛分を大町の半谷ワカさんは揮廿本を六區一丁目から六十三圓六十錢十區新川町から卅一圓廿五錢十七區仲間町よりは五十圓九十五錢等の慰問金を平町役場に寄託して來た

我れも同じ同胞

と朝鮮人の義憤

石城郡内郷村磐城炭礦朝鮮坑夫朝鮮成鐘南道生れ李昌朱(三)は今回の滿洲事變で吾軍の活動を耳にし自分も日本同胞として盡さんと部下坑夫五十餘名と共に吾軍へ慰問金を送るべく九日迄に廿五圓を集め同礦務課を過て陸軍省恤兵部宅に送つた由

按摩さんから

在滿兵へ金十圓

石城灸按組合平支部では在滿兵のため金十圓を慰問金として寄附したが按摩さんの真情に對し地方民は感激してゐる

豊間兵士慰問

石城郡豊間村軍人分會、青年團

第二校の子供等

けふ大喜び

第二回の童話會

平第三小學校にては花澤訓導が主となり毎月童話會を開いて居るがけふも午前十一時から左の如く第二回の童話會を開き童話等は大喜びであつた

- (開會の辭) 赤津校長
- (童話と舞踊) 渡邊訓導
- (皇太子様) 新家訓導
- (おはなし) 花澤訓導
- (閉會の辭) 乃野訓導

日支夫婦の衝突悲喜劇

滿洲事變が醸して

笑ふに笑はれない話

今回の滿洲事變に絡まり到る處に日支夫婦の悲喜劇を惹起してゐるが、その一つ石城郡湯本町宇天王崎農佐藤い(五)は亡夫の残した僅ばかりの金で

子供も

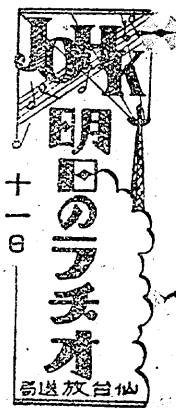
なく淋しく暮

してゐたが女ヤモメに花が咲く警の如く、いつしか行商にきた支那人山東省生れ張正祐(五)と懇意になり、つひに貴方さへよければ夫婦になる相談の上正祐は行商をやめイナは

二百圓

出資して呉服

行商の手を廣げ當時は相當収益もあり、繁昌してゐたが突發した滿洲事變により「支那人の呉服なんか買ふな」とか「なんだあの女は支那人の



明日のラジオ
今晩は北東の風、曇り明日北東の風、午前中は雨、午後には晴れの見込み

今晩の部

- 後六、〇〇 (子供の時間) 童話劇「あふり端」筑紫童話劇研究會
- 後六、三〇 英語講座「中等科」花岡兼定
- 後七、三〇 時事講座「滿洲出動部隊に對する國民の後援を感謝す」陸軍省軍務局長陸軍中將 小磯國照
- 後八、〇〇 軍歌と吹奏

明日の部

- 前九、一〇 料理献立「博多牛蒡」中村康子
- 前一〇、三〇 婦人講座「多事なりし昭和六年の

左右にして聞き入れ

へすついに夫婦別れをし、いなは貸た金を返せと正祐に迫つたが言を

偽コヨコ

平署の眼光

發見次第取押ふ

略本歴類似品は一時影をひそめてゐたが最近またもやこの出版物が横行し平地方に多數發賣されつゝあるの

常習賭博

平區裁判所にて

既報本月一日石城郡飯野村

は平檢事局で取調の結果五日本區裁判所より木村は罰金百圓、松本、渡邊はいづれも十五圓の略式命令を言渡されたが入江、黒沼、正木、松本の四名はいづれも賭博の常習犯である爲め近く公判に附せられる事になつた

玉川火防督勵

石城郡玉川村消防組では火災期に入るに先たつて是が豫防の爲め九日は第一部、十一日は第二部、十三日は第三部が夫々火防督勵を行ふ事になつた

映畫館で遺失

七日夜十一時頃田町世界館で活動見物中の田町三三渡邊さん(五)は座席の傍に黒皮の褌口が落ちて居たので開けて見ると認印二ヶと現金廿七圓が入つて居り早速平署に届出たが石城郡内郷村大字御座字下宿綱掛樂之助が混雑中に紛失したものと判明した

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町 電一七〇〇

小説 七五七

【載轉禁】

渡邊 默禪 作
布施平八郎 畫

我が子歸る(3)
右の手をとつて、ぐつと
武つ立てると
『いててえ。おい、木村あ
んまりひどいぞ、そんな邪
慥なことをしてくるなよ
これでもまだ生きてるんだ
から……』
と泣きさうな顔をして、
べちやんこに蒲團の上へ坐
つた。

『あ、生きて居なさるのか
生きてる人間なら最う些と
ハッキリと少しは生きてい
る人間らしくハキハキして
らア。お前などは季節お
くれの鹽鮭同様、十貫目五
圓てえ河岸の見切物だ。廉
賣市場へでも出したつて恐
らく買手があるめえ。意氣
地の無え野郎ぢやなア。』
『情ないことをいつてくれ
るなよ。』
『おい。金公。親父は如何
した、なに仕事に出かけた
つて、親父だけを稼がせて
手前は家に遊んでゐるのか
小僧のくせに怠惰者だな、
手前は……今ッからそん
な風ぢやあ行末が思ひやら
れる。此若旦那が好い御手
本だ。家を潰さねえやうに
みつしり稼がなくちやあい
けなえぞ。おい、湯でも沸
かして早くお茶を入れねえ

ませう。』
『何んの爲めに生れて来た
んだつて?』
源之助は妙な顔をして口
をもぐ／＼させながら
『それは哲學上の大問題だ
古來幾多の哲人や宗教家が
思索研究を重ねてもまた徹
底した斷案を得ない……』
『田樂だの豆腐だのつて、
そんな七難かしえことを聞
くんぢやねえ。お前さんは
道樂をするために、親父が
汗水をたらして貯め込んだ
金を使ふために、何代とな
く續いて来た十文字家の身
代をつぶすために、態々御



早くしろ、咽喉がかはいて
るんだから。』
『ぼん／＼叱り飛ばしてか
ら、源之助の方に向直ほつ
て』
『若旦那、お前さんは一體
何のために此の世に生れて
来なすつたんだね、まアそ
れから先きに聞かせて貰ひ

必らず人間らしい性慾があ
る。人間らしい性慾がある
から女が戀しくなる。女が
戀しくなるからその香を嗅
ぎに出る、嗅ぎに出るから
女にも自然打突る、打突る
から惚れられる、惚れられ
てから止むを得ず放蕩する
といふやうなまづざつと斯
う言ふ譯で……』
『撲るぞッ!』
清作は眼を剥き出して怒
鳴つた。
『えッ!』
ぎくりと尻込。
『惚氣を言つてる場合かい
家は今どうなつてると思の
だ、お前さんは……そん
な暢氣な頭惱だから現在の
おッ母から愚弄にされて
ノ口さんなんかと言はれて
るんだ、此のノ口助奴、愚
圖／＼して居る場合か、親
不孝奴。』
『何にノ口さんと言つたな

大塚の
学生靴!!!
耐久新製品
編上靴 六〇〇
半靴 五〇〇
不安心なるキカイ靴
り、安心得る弊店の靴
を……
大塚支店製靴部
電話七七番

看護婦急派
の求めに應
じます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番
一冊の代金で
御希望通りな
五冊の雑誌が
自由に讀める
川崎巡回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)

高久病院
院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町南町 電話五一三番
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
度量衡計量器吸入器
用酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

切斷の苦しみなく
靈藥ムテキ
ゆびはれ、やけど、淋病
梅毒、きりきり、乳はれ
くさ、りうまぢす
其他化膿するもの一切
發賣元 **阿康藥舖**
縣社下古鍛冶町(電話四四番)
米國製藥(無臭)レメドール(ヤケド、ヒビ、其
有偽物 要注意)グキキ効力本位
丹波博士創製 セキトメ
たんばあめ
うまくてセキ
がヨクトマル
外科 X光線科
性病科
外科
平町南町
安齊外科醫院
電話四七五番

着祝おの三五七
に方様子おいしら愛可
々等ルーヨシ。子帽。トンマ。ーバーオ。服洋
〇四一電 ヤ ル ツ 四平

増田醫院
平町南町一
電話四八二番